

令和2年度第2回笛吹市上下水道事業審議会議事概要

開催日時

令和3年3月19日（金）午後2時

開催場所

笛吹市 学びの杜みさか 講座教室

出席者

○上下水道事業審議会委員

筒井義章（連合区長会）、鈴木利也（連合区長会）、蒔田良彦（連合区長会）、中川恭彦（連合区長会）、橘田重友（連合区長会）、飯島清孝（連合区長会）、霜村和也（連合区長会）、福沢昭文（公共的団体等を代表する者）、三枝啓一（公共的団体等を代表する者）、若杉成剛（公共的団体等を代表する者）、竹内稔（公共的団体等を代表する者）、三井久美子（公共的団体等を代表する者）、長田美津恵（公共的団体等を代表する者）、内藤運富（学識経験を有する者）、片田興（学識経験を有する者）

○事務局

西海好治（公営企業部長）、梶原強（公営企業部課長）、島村秀忠（水道課長）、鈴木寿明（下水道課長）、加藤博文（業務課総務担当リーダー）、藤田昭二（水道課工務担当リーダー）、埴原豪一（下水道課施設担当リーダー）、丸山幸一（下水道課管理担当リーダー）、岩間皓平（業務課総務担当）霜村正浩（下水道課施設担当）、

欠席者

○上下水道事業審議会委員

河野佳一郎（公共的団体等を代表する者）、

次第（進行：梶原課長）

1.開会

2.上下水道事業審議会会長挨拶

3.議題

- (1) 水道事業ビジョンについて
- (2) 水道事業経営戦略について
- (3) 下水道事業経営戦略について
- (4) 下水道事業BCP（業務継続計画）について
- (5) 社会資本整備総合交付金事業（中間評価）について

4.その他

5.閉会

～開始：午後2：00～

1.開会

○梶原課長

2.上下水道事業審議会会長挨拶

○鈴木会長あいさつ

3.議題（座長：鈴木会長）

(1) 水道事業ビジョンについて

資料に基づき説明

質疑

○委員

資本的収入とは何でしょうか。

○事務局

起債と借金と一般会計からのお金と工事負担金などです。

○委員

我々庶民が支払う水道料金はこれではないのですか。

○事務局

水道料金につきましては収益的収入になります。

○委員

水道料金を値上げする根拠となる表はありますか。この差が水道料金値上げの根拠かと思ったのですが。

○事務局

先ほどの説明で、水を作る単価と売る単価を説明しました。作る単価の方が売る単価より大きい、差が赤字分となる。その差をなるべく小さくしたい。今

は一般会計より繰入している。値上げをすれば繰入が減りますが、まだまだ赤字経営となっています。

○委員

水道料金値上げの根拠、これだけ経営が苦しいと思えば、水道料金値上げもやむなしと判断するけど、今日のこの資料だけではだめですね。

○委員

1 ページ右側の不明管 8.49%とポリエチレン管 2.7%ある。たぶんこれは昔の石綿管が使われていると思う。そうすると 2 ページの強靱化の関係で、ここに 1 割もそんな管があると、災害が起きると一番最初にやられると思う。たぶん下水道が行かない地域ではないかと思う。こういう所を計画的に水道管を変えていかなければ強靱化も進まない。何か計画はあるのでしょうか。

○委員

今、石綿管は何%ですか。

○事務局

石綿管は 1 ページ (3) 管路の現状の、その他の管種 1%以下に分類されていて、割合は 0.44%です。

○委員

笛吹の右岸については、たぶん水源が琴川ダム。琴川ダムの当初の計画に対して実際の給水人口はどれくらいか、わかれば教えてほしい。

○事務局

給水人口についてはわかりませんが、受水量は一日に 7,200 トンになります。内訳は石和町が 2,900 トン、一宮町が 1,900 トン、春日居町が 2,400 トンになります。

○委員

琴川ダムの話が出ましたので、当時は水道事業で大変だったのは管路の布設替え、いつも漏水で水がなくなってしまう。もう 1 点は水質悪化で、硝酸性窒素が非常に高くなって、科学的にそれが乳幼児に影響があるということで水質の問題で、井戸を止めて水が足りなくなり、琴川ダムから受水するようになった。今回の計画を見ると、深井戸が 33 カ所ある。これから給水人口が減り給水

量が減っていく状況になるんですが、深井戸を今後どうするかがビジョンには出てこない。ずっと生かしておくのも給水量が減るのでどうかと思う。水質悪化の硝酸性窒素が今どうなっているのか、出ているのか出ていないのか、そこをお聞きしたい。要約すると水源をこれからどうするのか、閉鎖するのがあるのか、硝酸性窒素については今どんな考えであるのか、この 2 点教えてください。

○事務局

深井戸に関しては水質悪化となれば当然閉鎖となります。資料の 3 ページ⑤の持続⑩のダウンサイジングを考慮した更新とありますが、これは施設を出来るだけコンパクトにしていこうということで、水域の見直し、水を配っているエリアの見直しをかけます。見直しをかけることによって施設の縮小、コンパクトにしていくことを考えています。水質に関しては毎年 41 項目、原水の検査をして、国の厳しい検査基準をクリアしている。水質は水道事業において一番大事なことでするので厳しく監視しています。

(2) 水道事業経営戦略について

資料に基づき説明

質疑

○委員

給水人口を見ますと右肩下がりになるのですが、工業団地などの昼間の人口は加味されているのですか。

○事務局

工業団地等の従業員については加味されていません。

○委員

会社で使う、工業用の水道はあるのですか。

○事務局

笛吹市では工業用水道はありません。

(3) 下水道事業経営戦略について

資料に基づき説明

質疑

なし

(4) 下水道事業 BCP（業務継続計画）について

資料に基づき説明

質疑

なし

(5) 社会資本整備総合交付金事業（中間評価）について

資料に基づき説明

○委員

まず普及率 60.2%なるのですが、水洗化率はどの程度ですか。

○事務局

今現在、水洗化率は 92%です。

○委員

水洗化率が上がってこないと料金収入が増えないと思う。例えば富士見地区では新しい住宅が増えている。そうすると、どうしても合併浄化槽を設置する。そこに下水道が来た時に、なかなか接続してくれないケースが多い。工事するときは PR しながらやっていただきたい。これはお願いです。

それから、もう 1 点、効率的な下水道施設の検討を行うとのことで、先ほど計画を見直したとの話がでました。将来的に、計画のどのくらい認可を取っていくか、具体的な計画がありますか。

○事務局

前回の審議会資料をお配りしてありますが、認可が 2,512 ヘクタール、そのなかで 2,052 ヘクタール供用開始となり、あと 462 ヘクタール残っています。

○委員

これは、これから 10 年とかの計画ですか。

○事務局

10年の計画ですが、なにぶん財政困難により少し遅れてきているのが現状です。

○委員

下水道処理人口、普及率60%くらい。この値は全国的にはどうですか。また県内のほかの地域と比べてどうですか。

○事務局

県内でも笛吹市は良いほうです。ただ計画の途中段階ですので数字は毎年変動していきます。

4.その他

○委員

先ほど下水道事業のBCPを見せていただいた。上水道の方はありますか。

○事務局

上水道も、ビジョンでも謳っていますが、今後策定する予定です。来年度、再来年度以降になると思いますが予定はしていますので、ご承知おき下さい。

○委員

笛吹市は防災計画等が山梨市とかと比べると、とても遅いので市民的にはどうなっているのかなど、ちょっと前ですが学校と地域の施設の問題で校長先生が、まだわからないと、おっしゃっていた。皆さん見直し見直しで、お忙しいとは思いますが、なるべく早くしていただけると市民としては安心できると思うのでよろしくをお願いします。

○事務局

先ほどお配りした資料にも危機管理マニュアル及び業務継続計画（BCP）の策定を予定しています。

○委員

上水道については特に雪害について入れていただきたい。5年くらい前の雪害の時、水道管の凍結等いろいろありましたので、よろしくをお願いします

5.閉会

○蒔田副会長